

# 進路だより～3学期～

明星第162号

令和6年3月15日

キャリア支援部進路指導班



文：井上

《第32回国家試験無事終了！》

2月24日のあん摩マッサージ指圧師試験には専攻科保健理療科3年の松本さんが、25日のはり師、きゅう師試験には卒業生1名が受験しました。今回は2日とも受験生は1名ずつということで、試験会場も例年とはだいぶ違う雰囲気の中、それぞれ体調を整え、万全の態勢で試験に集中して臨むことができたようです。

27日4校時の受験者報告会では松本さんが後輩の皆さんに試験のことや、入学以来受験に向けて取り組んできたことなどを話してくれました。

1年の頃は、授業で学んだことをノートにまとめたりして復習する方法をとっていたが、2年からは授業中に教科書の大事な箇所に線を引いたり、書き込んだりしたものを、ひたすら読んで復習する方法が自分には合っていたので、それをずっと継続してきたそうです。また、体調管理、コンディションづくりのために、松本さんは「特別なことはしない、普段のペースを崩さないこと」と心がけていたそうです。

合格発表は3月26日です。

《ヘルスキーパーとして働く卒業生からのメッセージ》

昨年本校専攻科保健理療科を卒業し、8月から延岡市の企業で働く小林さんから近況報告とメッセージを寄せてもらいました。

覚えていますでしょうか、小林です。現在、旭化成アビリティという会社でヘルスキーパーとして勤めています。在学中、進路希望調査用紙に、好奇心で書き続けた企業専属の理療師という道。県内にいる限り、実現は難しいだろうと考えていましたが、数々のご縁に恵まれ、奇跡的に叶ってしまいました。言霊というやつでしょうか。

障がい者の雇用を精力的に行う会社とあり、様々な障がいを抱えた方も多く施術を受けに来られます。プレッシャーや悩みも多くある日々ですが、利用者に喜んで頂けて感謝されることが、とても励みになっていると感じます。

春も訪れ、進学や就職をされる方もいらっしゃるかと思います。人生を豊かにするものは経験であると考えてる僕から最後にひとこと。

今日の一步が未来の糧になると信じて、恐れず、新しい世界に踏み出してください！

## 「ドキフェス2 インくにとみ」雑感

文：上埜

昨年度高鍋美術館での「ドキフェス」に引き続き、今年度「ドキフェス2 インくにとみ」を国富総合文化会館にて3月20日（水）まで開催しています。みなさん、ぜひ足をお運びください。

今回、明星視覚支援学校主催での大きな展覧会としては2度目となります。ただ、これは毎年続けるのは、現状では難しいものです。昨年度、好評のうちに終わることも考えましたが、もう一度だけドキフェスをやることで別の面が浮かび上がるのではと思い、進めさせていただきました。そのことを雑感として書かせていただきます。

まず、ドキフェス2回目をやるにあたり、目的から見直しました。「明星の子どもたち、また皆さんに美術館に行ってもらいたい」から、今回は「本校生、皆さんを校外にアピールしたい、もっと明星を知ってもらいたい。」にしました。さらに、「明星の皆さんに、まわりの人々の存在を感じてほしい。そして校外の人々にもまた、明星を感じてほしい」という目的を加えました。そこで挑戦したのが「ハッピーな壁」です。全国に向けあらゆる機会で作品の参加を呼びかけました。すると、20団体250点近くあつまり、会場15メートルの壁面を「ハッピーな壁」で埋め尽くしました。私は、展示しながら「参加された方たちは、明星の存在を感じ、つながろうとしてくれているのだ。」と感じました。私たちはどう答えましょうか？

さて、最後に私がこの半年準備をする中で感じた事を述べます。この明星視覚支援学校は、今とても平和で雰囲気の良い学校だと思います。でも、今までの通りに日々を過ごしていて、ずっとこのままでいられるのでしょうか。時間は様々な形に変化しながら流れ、時代は進んでいきます。同じ考えのまま同じことをやっていては、変わらないのではなく取り残されていきます。「温故知新」という言葉がありますが、この学校もまた良い部分を残しながらも、少しずつでも新しく変化すべきなのだと思います。まずは気づかない幼児・児童・生徒・保護者・職員などの「壁」から向き合っていくべきだと、私はハッピーな壁を作りながら思いました。

さて、今回で「ドキドキ ワールド クラフト フェスティバル」の全てを閉じます。幼児・児童・生徒・家族・職員のみなさん、ご協力ありがとうございました。今度は、皆さんのアイデアで明星にいろいろな変化をあたえてください。これからも、すてきな学校として存続し続けていくことを願います。

